

よいことの
ために
手を取りあおう

THE ROTARY CLUB OF PORT NAGOYA

Weekly Report

名古屋みなと

2025~2026

承認 1966年 5月12日 例会日 金曜日 12:30
例会場 名古屋マリオットアソシアホテル
事務局 TEL 052-221-7020 FAX 052-221-7023
E-Mail office@portnagoya-rc.com
URL http://www.portnagoya-rc.com
会長 室原 國彦 幹事 沼野 明
公共イメージ向上委員長 小椋 由美子

THE MAGIC OF ROTARY ロータリーのマジック R.I. 会長 フランチェスコ・アレツォ



第 2758 回例会 No.14

2025年(令和7年)11月14日(金) 晴
「セイリング - 幸せになるために -」

出席報告

会員 67 名中 48 名 出席率 71.64%

○スピーカー

北陸朝日放送株式会社代表取締役社長

金沢みなと RC 副会長・幹事 能田 剛志 様

○ビジター

金沢みなと RC 会長 松井 清二 様

金沢みなと RC S.A.A. 西江 顕治 様

会長挨拶

会長 室原 國彦さん



皆さま、こんにちは。先日
の豊川での地区大会に
参加して頂きました皆様
ありがとうございました。
また、多くの会員の方が
会場に最後まで残って頂
き大変うれしく思いま
した。

来年の地区大会の会場は、エスパシオナゴヤキャッ
スルで、今までの2日間開催を1日に短縮しての開催
になります。役員・理事・委員長、入会3年未満の会
員の方は出席義務者ですので、出席よろしくお願いいたします。

本日は、金沢みなとロータリークラブの松井会長、
能田幹事、西江 SAA の皆様をお迎えしての例会でござ
います。ようこそお越しくださいました。

昨年の11月12日に9月の能登半島豪雨の直後、
私どもは、甚大な被害を受けた町野地区を訪問いたし
ました。その時、能田幹事の会社の社員の方に道なき
道を案内いただき、現地の厳しい被害状況を目の当
りにしました。少しでも早く、これから、厳しい冬を
迎える、被災地の方々に、少しでも暖が取れるよう
にと、創立60周年委員会で被災地に一刻も早く奉仕活
動が出来ないかと話し合い、創立60周年奉仕事業を
前倒しすることになり、1月に布団乾燥機200台を寄
贈いたしました。

そして、今年の4月21日、私たちは、再び、松井
会長の運転で町野地区を訪問して、住民の皆様と懇談
会をしてまいりましたが、まだまだ道半ばと強く感じ
ました。引き続き能登支援を続けていきたいと思いま
す。

2025年4月2日
輪島市町野町「もとやスーパー」再訪問!!
布団乾燥機200台、寄贈後の現地で開催、まだまだ復興途中!!



本日は、北陸朝日放送社長である能田幹事から「能
登の災害時におけるメディアの果たした役割」という卓
話、楽しみにしています。

よろしくお願いいたします。

金沢みなと RC 会長挨拶

金沢みなと RC 会長 松井 清二 様



みなさん、こんにちは。
本日は二度目の来訪とな
ります。今回は、ゴルフ大
会の話があり、とても賑
やかな雰囲気でした。皆さ
んと握手を交わし、素晴
らしいクラブだと感しま
した。今回も同様に握手を
し、

皆さんから元気をいただいたように思います。

昨年1月に発生した地震の際には、皆様から迅速に
義援金をいただき、心より感謝申し上げます。義援金
は、輪島ロータリー、七尾ロータリー、珠洲ロータ
リーの3クラブに、私たちの資金も含めて分配するこ
とができました。特に輪島ロータリーは活動が非常に活
発で、被災により使用できなくなっていた例会場の再
建に取り組み、新しい施設が完成間近です。輪島も一
生懸命頑張っています。

また、1月27日には、室原会長のお話にもありま
したように、布団乾燥機200台を寄贈いただきました。
仮設住宅で使うのではなく、新しい家が完成した際に

使うため、大切に保管されている方も多くいらっしゃいます。こうした支援に、地元の皆様は大変喜んでおられます。改めて、心より感謝申し上げます。

先日、水曜日に輪島を訪問し、金沢みなとと名古屋みなとが共同で取り組めるプログラムを検討中です。今後少しずつ皆様にご案内できるものと思います。このようなつながりを通じて、皆様が金沢にお越しただけの環境を整え、交流がさらに深まることを願っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

本日は、能田が映像をご紹介します予定ですが。輪島を訪れると、被災された方々や仮設住宅で生活されている方々が懸命に頑張り、おばちゃんたちも明るく元気に過ごしています。私たちも引き続き応援していきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、本日も一日よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

入会式 委嘱状伝達

新入会員カウンセラー

桑田 早苗さん

久留宮 秀郎さん



氏 名 桑田 早苗・くわた さなえ
生年月日 1977年6月6日 48歳
紹介者 森 真悟
事業所 株式会社ワークブレイン 代表取締役
〒460-0008
名古屋市中区栄 1-24-25
職業分類 不動産業
趣味 映画、読書、ゴルフ、三線、瞑想
カウンセラー 久留宮 秀郎

表彰

35カ年在籍

田島 伸也さん



ニコBOX

(金沢みなとロータリーから来ました。名古屋みなとの皆様とお会いできてとてもうれしく思っております。本日もよろしくお願いいたします)

金沢みなとロータリークラブ会長 松井 清二様
(本日はお招きありがとうございます。能登震災への支援も誠にありがとうございます)

金沢みなとロータリークラブ副会長・幹事 能田 剛様
(本日はお招き頂きありがとうございます。また、昨日も楽しい時間を過ごさせて頂きました。今後ともよろしくお願いいたします)

金沢みなとロータリークラブ S.A.A. 西江 顕治様
(金沢みなとロータリークラブから松井会長、能田幹事、西江 S.A.A.の皆様、ようこそお越し頂きました。歓迎いたします) 室原会長

(松井会長、能田幹事、西江 S.A.A.ようこそお越し下さいました。能田幹事、本日の卓話宜しくお願い致します) 沼野幹事

(松井会長、能田幹事、S.A.A.西江さん、ようこそおいで下さいました。お楽しみ下さい) 寺本さん

(金沢みなとロータリークラブ様、ようこそお越し下さいました) 福西さん

(金沢みなとロータリークラブ松井会長、能田幹事、S.A.A.西江さん、ようこそお越し下さいました)

棚橋さん

(金沢みなとロータリークラブの皆様、ようこそお越し下さいました。お土産ありがとうございます。この後の卓話楽しみにしております) 橋本(美)さん

本日合計	89,000 円
累 計	1,108,266 円

幹事報告

次回例会でまとめて報告いたします。

卓話

「2024 能登半島地震と能登豪雨、
メディアの果たした役割」

金沢みなと RC 副会長・幹事

北陸朝日放送株式会社代表取締役社長

能田 剛志 様



石川県のテレビ朝日系列局、北陸朝日放送の能田と申します。名古屋ではメーテレと同じ系列になります。先ほどご覧いただいた映像にもありましたが、町野地区の方々への布団乾燥機の支援について、改めて御礼申し上げます。特に被害の大きかったもとやスーパーをはじめ町野地区へご支援いただき、心より感謝いたします。

松井会長がお話しされた通り、町野の皆さんは「これからどんどん前に進んでいく」という強い思いを持って

います。復旧はまだ十分に進んでおらず、復興には至っていませんが、能登豪雨で一度心が折れた後も、再び立ち上がろうと懸命に努力されています。

本日お話しするのは「メディアの果たした役割」についてです。1月1日16時に発災をした時は正月で飲んでいましたが、すぐに会社へ出社しました。一方、報道部のスタッフは飲まずに待機しており、すぐに3班、4班体制で取材に出ました。しかし、当初は状況が全く分からず、現場にたどり着くことも困難でした。こうした災害時には、系列局のネットワークが大きな力を発揮します。石川の場合、新潟、長野、名古屋、大阪、そしてテレビ朝日、各局が一斉に応援に入りました。北海道テレビからも「今からフェリーで向かいます」という連絡が、発災からわずか1時間ほどで届きました。多い時には、各系列合わせて400~500人規模のスタッフが取材に入ったと思われます。被災地にとっては迷惑な話なのかもしれませんが、災害報道はテレビ局にとって一丁目一番地なのです。裏付けを取った正確な映像と情報を届けるため、全力で取り組んできました。現在「オールドメディア」と呼ばれることもありますが、信頼できる情報を、速やかに、的確に、県民の皆様へお届けすること、それが私たちの使命です。

私は34年前、当社の開局時に一般公募のメンバーとして入社しました。当時31歳でしたが、その後2019年6月に社長を拝命し、現在65歳になります。

先ほど取材の話をしましたが、震災が発生した際に放送インフラがどうなるのか、そして情報インフラや携帯を含む生活インフラがどうなるのかという点についてお話ししたいと思います。テレビ局にとって中継局は非常に重要です。私たちの本局から電波を発信し、能登島を経由して能登北部まで放送を届けています。今回の震災では、一部の中継局が損壊したほか停電が発生しました。停電時には自家発電が稼働しますが、燃料は約3日分しかなく、次第に枯渇してしまいます。燃料が尽きると電波を届けられなくなり、いわゆる「停波」が起こります。小規模な中継局(100~500世帯程度)であれば、やむを得ない場合もありますが、大規模な局を止めるわけにはいきません。そのため、私たち民放4社の社長はホットラインで連絡を取り合い、1月1日深夜から2日にかけて、どのように対応するかを協議し続けました。

自衛隊ヘリでの燃料運搬&給油作業



ヘリから降下し、雪が積もる中、1缶20ℓの燃料を局舎まで運び、発電機へ最大200ℓの給油を実施

停波を避けるため、私たちは自衛隊に協力を依頼し、ヘリコプターで燃料を運んでもらいました。技術スタッフは、ホバリングするヘリから自衛隊員に抱えられて降り、燃料を補給しました。中継局は人里離れた山の上にある

ため、震災後は道も壊れており、燃料を抱えて進むのは非常に困難でした。それでも、3日に1回ほどヘリで燃料を運び、停波を阻止しました。技術スタッフは「絶対に停波させない」という強い使命感で対応しましたが、雪の中で道が分からず雪穴に落ちる人、燃料補給中にバランスを崩して燃料を頭からかぶる人など、危険な状況が続出しました。命に関わる事態となり、自衛隊へのヘリ要請をやめるべきかという議論も出た時ようやく復電が実現しました。ただ、この復電も、日頃から電力会社と緊密なコミュニケーションを取っていれば、もっと早く優先的に対応してもらえたかもしれません。残念ながらその準備がなく、最終的には民放全局の社長名で北陸電力に復電をお願いする形となりました。

震災時、復電は人命を守る病院などが最優先になります。この経験を全国の民放連で共有し、災害時に備えて電力会社と日頃から連携する重要性を訴えました。1月4日から30日まで燃料タンクを抱えて山道を登り、20回以上補給を行いながら放送を維持しました。しかし、このことは行政や視聴者にはほとんど知られておらず、放送インフラの脆弱性を痛感しました。今後は中継局や通信を含め、災害対応の強靱化を進める必要があることを学びました。

震災対応がようやく落ち着き、復旧が少しずつ進み始めたものの、輪島の朝市の惨状は皆さんご存じの通り、ビルが横倒しになり、震災後の火災で朝市が全焼しました。昨年9月時点でも状況はほとんど変わっておらず、仮設住宅がようやく整備され、なんとか生活できる状態になった中で9月21日の豪雨でした。心が折れたという話が、あちこちで聞かれました。この時もヘリで燃料を運び徒歩で中継局まで行くなどして停波を防ぎ、ようやく復電を実現しました。しかし、震災と能登豪雨の影響で被害は広範囲に及び、住民は避難や移住を余儀なくされました。私たちは地元報道機関として、何をすべきかを社内で検討し続け、発災直後にはテレビ朝日と連携して災害報道に切り替えました。現地取材は困難でしたが、輪島支局のカメラマンが火災の映像を撮影し、名古屋や新潟からのヘリ映像とともに報道を続けました。系列局から入る多くの応援スタッフのため、私たちは宿や食事、トイレの確保に奔走しました。被害の少なかった民宿を借り上げ、キャンピングカーを4台現地近くに配置して食料や水、簡易トイレを送り込みました。しかし、金沢から現地まで片道12時間かかり、営業スタッフが朝出発して夜に到着、翌朝帰るという過酷な状況が続きました。また、女性記者も多く応援に来ていましたが、トイレ問題で長期滞在が難しい場面もありました。それでも私たちは、震災から1か月後、3か月後と特番を制作し、能登の現状を伝え続けています。先ほど申し上げた輪島のカメラマンは、地震で傷ついたふるさと被災者として、カメラマンとして生きています。

震災報道では、撮影を拒む人もいれば、自分が語らなければ亡くなった人の思いが伝わらないとカメラに立ち続ける人もいます。

地元報道機関としての取り組みと課題④

2025年は、HABの災害報道のあり方を検証する番組や震災前から継続してきた報道の蓄積を生かした番組の制作にも取り組んだ。
・2025年4月 5日「テレメンタリー カメラを止めた、あの日」(30分) **全国放送**
・2025年5月25日「被災者と取材者 災害報道は誰のために」(60分)
・2025年5月 3日「焼失 輪島 人間国宝の復興」(30分)



まもなく地震から2年

報道現場の課題は、被災者とのつながりを広げ、被災地が抱える課題を日常的に報じ続けること
⇒ 伝えることが復興の後押しとなり、防災・減災につながる

私たちはその両方に向き合い、震災の実態と復興の歩みを長期にわたり伝え続ける責任があります。被災地にとって「忘れられること」が最もつらいことです。だからこそ、皆さんの支援とともに、メディアとして寄り添い続けたいと思います。私たちは「石川ふるさと支援大賞」を24年間続け、今回も19市町村の「ありがとう」をCMで発信しています。震災を決して忘れず、これからも報道を通じて支援を続けていきます。本日は貴重なお時間をいただき、ありがとうございました。

2024-25年度 ロータリー財団寄付認証バナー・感謝状



第5回 理事会議事録

とき 令和7年11月14日(金) 13:55～
ところ 名古屋マリオットアソシアホテル 17F「楠」
出席者 室原 鈴木 沼野 猪子 水谷 山内
橋本(美) 加藤(昌) 加藤(嗣) 久留宮
寺本 棚橋 福西 13名(敬称略)

1. 協議事項

①次年度地区委員会への出向承認と推薦について

- ・学友委員会/長瀬さん
- ・グローバル奨学生・平和フェロー委員会委員長/長瀬さん
- ・ラーニング委員会/寺本さん

- ・ファシリテーター/寺本さん
- ・国際奉仕委員会/久留宮さん
- ・ロータリーアクト委員会/野村さん

▶全員承認

2. 審議事項 なし

3. 報告事項

鈴木副会長より、金沢みなと RC との懇親会について報告

猪子エレクトより、次年度クラブ外交流(キワニスクラブ)について提案

金沢みなとロータリークラブとの交流会

とき 令和7年11月13日(木) 18:00～

ところ 玉翠

出席者 金沢みなとロータリークラブ
松井会長、能田幹事、西江 S.A.A.
名古屋みなとロータリークラブ
室原、鈴木、沼野、猪子、福西、寺本
棚橋、芹澤、中井、藤掛(敬称略) 13名



1 「歯磨きを習慣に」モンゴルの学校に歯磨きコーナー設置

モンゴルのウランバートル市チンダルタイ区にある第39番小学校と第72番小学校に「歯磨きコーナー」が新設され、開設セレモニーが10月6日に行われました。セレモニーには当財団の若林紀男理事長が出席しました。

モンゴルでは、子どもたちに歯磨きを習慣が定着しておらず、多くの子どもが何らかの歯科疾患を抱えている現状があります。しかし、多くの学校では洗面台がトイレ内にしか設置されていないことが課題でした。そこで、モンゴル米山学友会主導で、トイレとは別の場所に「歯磨き専用コーナー」を設けることで、子どもたちが歯磨きの習慣を身につけられる環境づくりを進めました。

2 2026 学年度奨学金申込み状況

10月15日に締め切りを迎えた2026学年度のロータリー米山記念奨学金(学部・修士・博士/地区奨励)には、指定校610キャンパス(前年度586キャンパス、地区を越えた指定校の重複含む)から1,364人(前年1,206人)が推薦されました。被推薦者の国・地域は、中国47.2%(51.4%)、ベトナム12.5%(11.9%)、韓国8.4%(9.3%)、ミャンマー4.6%(2.5%)、ネパール3.7%(3.6%)、インドネシア3.7%(2.7%)で続いています。

3 国際交流授業で高校生の異文化理解促進

10月15日、第2750地区米山学友会が東京都立小平高等学校にて、2年生を対象とした国際交流授業を実施しました。今回の授業には、9人の米山学友が講師として参加。2年生の9クラス、約320人の高校生に向けて、自国の歴史や文化、日本留学のきっかけ、現在異文化への理解を深める意義ある時間となりました。

4 寄付金速報 — 米山月間のご寄付に感謝！ —



10月までの寄付金は、前年同期と比べて7.9%減(普通寄付金: 2.2%減、特別寄付金: 11.8%減)、約4,200万円の減少となりました。

大口寄付および会員数の減少が、特別寄付金の減少につながり、結果として全体の寄付額にも影響を及ぼしています。

今年も残り2カ月を切りました。引き続きご支援賜りますようお願いいたします。

5 3人が紺綬褒章受章 2度目の受章者も

第2630地区(岐阜県・三重県)上野RCの丸山統正氏が、6月21日付で紺綬褒章飾版を受章しました。10月14日の同クラブ例会にて伝達式が行われ、当財団の若林紀男理事長から章記と飾版が伝達されました。丸山氏は2021年5月、当財団としては初となる紺綬褒章を受章され、今回が2度目。当財団への寄付で2度受賞されたのも丸山氏が初めてとなります。

また、第2680地区(兵庫県)芦屋RCの宮本一氏が7月30日付で、第2700地区(福岡県・長崎県・佐賀県)博多イブニングRCの小山田浩定氏が8月27日付で、それぞれ紺綬褒章を受章しました。

紺綬褒章は、公益のために私財を寄付し、そ



2度目の受章となった丸山氏(前列左から5番目)

の功績が顕著な個人または団体に對して天皇陛下より授与される褒章で、当財団は2018年9月に紺綬褒章の公益団体認定を受けています。受章された皆さまに、心よりお祝い申し上げます。

6 横のつながりを強化「ロータリーユースの集い」開催

10月12日、第2790地区(千葉県)の地区大会に合わせて「地区大会ロータリーユースの集い」が開催され、同地区米山奨学生・学友36人のほか、青少年交換留学生、ROTEX、ローターアクトなど、計80人が参加しました。このイベントは、ロータリーの新世代が横のつながりを築くことを目的に発足し、各プログラムに関わる若い世代が一堂に会する貴重な機会です。当



日はアイスブレイクや懇親会を通じて活発な交流が行われ、互いの活動への理解を深めました。

参加した同地区米山学友会事務局長の蘇爾郷さんは(2023-25/茂原RC)

は、「ロータリーで展開されている他のプログラムの若者同士が集い、さまざまな国籍や年齢の方々と交流できるこの場は、本当に意義深いものです」と語りました。

米山学友の顔

よねやま親善大使をお招きください

活躍する米山学友の代表として、当事業のあらしや自身の活動、ロータリーと交流し、学んだ経験が人生においてどのように生かされているか等をお話しします。現在、第6代よねやま親善大使が活動中です。地区大会や米山セミナー、奨学生のオリエンテーションや歓迎会等でのスピーチに、ぜひお招きください。

詳細はこちら



公益財団法人ロータリー米山記念奨学会

〒105-0011

東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3F

Tel: 03-3434-8681 Fax: 03-3578-8281

E-mail: highlight@rotary-yonemura.or.jp

URL: https://www.rotary-yonemura.or.jp/

編集担当: 長尾(ながお)

月	日	今後の例会予定
11	21	港友例会 17F「コスモス」 新入会員自己紹介 早川 武仁さん
	28	休会
12	5	年次総会・第2回クラブフォーラム 17F「コスモス」
	12	卓話 17F「コスモス」 『創立50周年式典について』 第50代会長 杉江豊文さん
	19	例会変更 Christmas Night 2025 (忘年家族会) 受付 17:30 開会 18:00 16F「アイリス」
	26	休会
	2	休会
1	9	港友例会 17F「コスモス」
	16	卓話 17F「コスモス」 高井隆一さん
	23	卓話 17F「コスモス」 三州食品株式会社 代表取締役社長 名古屋北ロータリークラブ岩月顕司様
	30	休会
	6	港友例会 17F「コスモス」
2	13	休会
	20	例会変更 西名古屋分区分 IM 2/18
	27	卓話 17F「コスモス」 名古屋掖済会病院看護師 休石直美様